

使徒 8 : 1-40

「ピリポを用いて伝道される神」

- 8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。
- 8:2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のために非常に悲しんだ。
- 8:3 サウロは教会を荒らし、家々に入って、男も女も引きずり出し、次々に牢に入れた。
- 8:4 他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。
- 8:5 ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。
- 8:6 群衆はピリポの話聞き、その行っていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。
- 8:7 汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし、多くの中風の者や足のなえた者は直ったからである。
- 8:8 それでその町に大きな喜びが起こった。
- 8:9 ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行って、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。
- 8:10 小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。
- 8:11 人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。
- 8:12 しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。
- 8:13 シモン自身も信じて、バプテスマを受け、いつもピリポについていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟が行われるのを見て、驚いていた。
- 8:14 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。
- 8:15 ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。
- 8:16 彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。
- 8:17 ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。
- 8:18 使徒たちが手を置くと御霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに金を持って来て、
- 8:19 「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を私にも下さい」と言った。
- 8:20 ペテロは彼に向かって言った。「あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れようと思っているからです。
- 8:21 あなたは、このことについては何の関係もないし、それにあずかることもできません。あなたの心が神の前に正しくないからです。
- 8:22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。
- 8:23 あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいることが、私にはよくわかっています。」
- 8:24 シモンは答えて言った。「あなたがたの言われた事が何も私に起こらないように、私のために主に祈ってください。」
- 8:25 このようにして、使徒たちはおごそかにあかしをし、また主のことばを語って後、エルサレムへの帰途につき、サマリヤ人の多くの村でも福音を宣べ伝えた。
- 8:26 ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」(このガザは今、荒れ果てている。)
- 8:27 そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピヤ人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、
- 8:28 いま帰る途中であった。彼は馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。
- 8:29 御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい」と言われた。

8:30 そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが、わかりますか」と言った。

8:31 すると、その人は、「導く人がなければ、どうしてわかりましょう」と言った。そして、馬車に乗っていっしょにすわるように、ピリポに頼んだ。

8:32 彼が読んでいた聖書の箇所には、こう書いてあった。「ほふり場に連れて行かれる羊のように、また、黙々として毛を刈る者の前に立つ小羊のように、彼は口を開かなかった。

8:33 彼は、卑しめられ、そのさばきも取り上げられた。彼の時代のことを、だれが話すことができようか。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」

8:34 宦官はピリポに向かって言った。「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

8:35 ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。

8:36 道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水がありません。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」

8:38 そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。

8:39 水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。

8:40 それからピリポはアゾトに現れ、すべての町々を通して福音を宣べ伝え、カイザリヤに行った。

はじめに

先週の箇所ステパノが殉教し、その後、エルサレムで教会に対する激しい迫害が起こりました。それが原因で、使徒以外の多くのクリスチャンがその土地を追われました。エルサレムを去った信徒の中に、ピリポという人がいました。彼はサマリヤに行き、引き続きイエスに仕え、福音を宣べ伝えました。ピリポは、エルサレムで拡大中の教会で奉仕するように使徒によって任命された人たちのひとりでした。(使徒 6:5)

ステパノとはいっしょに奉仕していたので、友人だったでしょう。ピリポは、ステパノが信仰のために殺されたことを知って動揺していたと思います。けれども、失望せずにサマリヤというよその地方に行き、現地の人に伝道しました。エルサレムからサマリヤの距離は、約 70km、移動するのに丸一日かかる距離です。

今読んだ聖書箇所の中には、ふたつの異なる伝道活動が記録されています。群衆に向かって語る方法と、個人的に一对一で伝道する方法です。この箇所をふたつに分けて、各々の方法について学びたいと思います。

1. ピリポがサマリヤの町で群衆にキリストを伝える。(8: 4-25)

ユダヤ人はサマリヤ人を軽蔑していたので、ピリポがサマリヤに行ったこと自体、大胆な行動です。サマリヤ人は、紀元前 10 世紀ごろにユダヤ教正統派の信仰から分派したユダヤ人です。彼らは後に自分たちの社会を築き、ゲリジム山にもうひとつの神殿を立てました。そして、モーセ五書と呼ばれる最初の 5 つの書を除いて、旧約聖書をすべて否定しました。ユダヤ人にすれば、彼らは異端であり、カルト集団のようなものです。それでもピリポは聖霊に導かれて、伝道目的でサマリヤに行きました。ルカは、そこで起こった出来事を 5 つの段階に分けて話を展開します。

第一段階：ピリポが町で伝道する。(8: 5-8)

ピリポは町の人々にキリストを宣べ伝え、彼らはピリポの話に耳を傾けたとあります。福音を伝えたあとに、彼はしるしも行いました。悪霊を追い出すと、悪霊は大声で叫びながら出ていきました。体が麻痺していた人々も大勢癒やされました。

それで、町中の人たちが喜びました。
福音が語られた後に聖霊が力強く働かれるところには、悪魔も近くにいます。
この個所では、悪魔は、シモンという魔術師をとおして働きます。

第二段階：魔術師シモンが信仰を告白する。(8:9-13)

ピリポがサマリヤに行く前、そこには別の霊的な影響力が働いていました。
シモンという名の人が、町で魔術をしていたのです。彼は、自分の力を吹聴し、神のようにふるまって、人気を得ていました。
彼は魔術を行っていたとみことばは語ります。
この単語とそれがどのような行いであるかを理解しておくことが大切です。というのも、魔術は人の関心を引きやすく、とても危険だからです。
辞書で「魔術」と引くと「人の心を惑わす術。魔法。悪霊を動かす妖術的なもの」とあります。
魔術とは、神の知恵と力に頼らずに、神ではなくサタンに栄光をもたらそうとするものです。
悪魔が人を欺く手段です。

申命記 18 : 10-14

18:10 あなたのうちに自分の息子、娘に火の中を通らせる者があってはならない。占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、

18:11 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死人に伺いを立てる者があってはならない。

18:12 これらのことを行う者はみな、【主】が忌みきらわれるからである。これらの忌みきらうべきことのために、あなたの神、【主】は、あなたの前から、彼らを追い払われる。

18:13 あなたは、あなたの神、【主】に対して全き者でなければならない。

18:14 あなたが占領しようとしているこれらの異邦の民は、卜者や占い師に聞き従ってきたのは確かである。しかし、あなたには、あなたの神、【主】は、そうすることを許されない。

ですから、このシモンという男は、悪いことをしていました。それでも、人気があつて儲かっていました。ところが、ピリポがイエス・キリストの御名と神の御国についての良い知らせを伝えたことで、シモンはさらに偉大な力があることを知りました。そして、彼自身も信じてバプテスマを受け、ピリポについてまわったとあります。
けれども、彼は頭で信じただけであつて、心は神の聖霊の力に触れられていなかったことが、後になってわかります。

第三段階：使徒たちがペテロとヨハネをサマリヤに派遣する。(8:14-17)

エルサレムの使徒たちは、サマリヤ人たちが神のみことばを受け入れたと聞くと、ペテロとヨハネを派遣しました。

サマリヤ人は福音を受け入れてバプテスマを受けただけで、聖霊はまだ受けていないことを、ペテロとヨハネは知った、とは書かれていません。

けれどもふたりは、何かが欠けていることに気づきました。

人々は「主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけ」だとみことばは語ります。

この状況については、後ほどお話することにしましょう。

この個所は教会の中でも意見の分かれるところですので、慎重に学ぶ必要があります。

第四段階：シモンがお金で力を手に入れようとする。(8:18-24)

使徒たちが人々の頭に手を置くと、彼らに聖霊が与えられました。その様子を見たシモンは、同じ力を自分もほしくなりました。

シモンは、お金でその力を譲ってほしいと使徒たちに言いました。

お金で力を得ようとしたシモンを、ペテロは厳しく非難しました。

使徒 8 : 19-24

8:19 「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を私にも下さい」と言った。

8:20 ペテロは彼に向かって言った。「あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れようと思っているからです。」

8:21 あなたは、このことについては何の関係もないし、それにあずかることもできません。あなたの心が神の前に正しくないからです。

8:22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。

8:23 あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいることが、私にはよくわかっています。」

8:24 シモンは答えて言った。「あなたがたの言われた事が何も私に起こらないように、私のために主に祈ってください。」

24 節に注目してください。シモンは悔い改めていませんし、自分で祈ることもできたのに、ペテロに祈ってくださいとお願いしています。彼が気にしていたのは神の裁きを免れることだけでした。自ら罪を悔い改めて、神の赦しを得ることには関心がなかったのです。

第五段階：ペテロとヨハネがサマリヤ人の多くの村で福音を宣べ伝える。

最後の第五段階では、ペテロとヨハネがエルサレムへ帰る途上にある多くの村で伝道したことが書かれています。

これがこの個所の大筋です。

では、ピリポと使徒と聖霊の話に戻しましょう。

8 章 14-17 節です。

この個所で起こっていることをちゃんと理解する必要があります。

ローマカトリック教やペンテコステ派、または 1980 年代に始まった初期カリスマ派の教会に行っていた人は、クリスチャンの信仰には救いが二段階あると教えられたかもしれません。けれども、新約聖書の教えによるとそれは間違いです。

神のみことばを解き明かすのは、個人の解釈ではなく、神のみことば自体です。

著者の意図に従って、神のみことば、ユダヤ人の文化的思想、そして、状況の全容を理解することが、正しい聖書理解に不可欠です。

まず、この個所についてふたつのことを考える必要があります。

1. 使徒たちは、ピリポが行った働きを承認するためにサマリヤに行ったのでしょうか。
2. サマリヤにキリスト教会を創立する上で、欠けていたものがあつたのでしょうか。

ルカが使徒の働きで教会の発展について教えている内容に基づいて、これらの問いに答える必要があります。

まず、ルカは最初から起こったことをすべて完全に理解していて、それを順序立てて記録に残そうとしていました。それは、私たちが知るべきことを確実に知るためです。

(ルカ 1 : 3-4 意識)

次に、使徒 1 : 8 を思い出しましょう。

使徒 1 : 8

1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

ルカは、初代教会の 3 つの発展を描きます。

ひとつめは、エルサレムで五旬節に起こった出来事です。

使徒 2 章では、ユダヤ人の上に聖霊のしるしが目に見えるかたちで下りました。

炎のような舌や、習ったことのない言語で神のみことばを話すことでした。

ふたつめは、サマリヤでの出来事で、今日の個所です。

3 つめは、異邦人が救われて、教会に加わった出来事です。

サマリヤ人は信じてバプテスマを受けましたが、聖霊はまだ彼らに下っておられなかったとあります。

また、サマリヤ人は主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけであるとも記されています。

ここで考えなくてはならない重要なことが 3 つあります。

1. ピリポは伝道者だったので、聖霊の賜物が与えられるように祈ることはできなかったのでしょうか。その能力は明らかに持っていました。彼自身が聖霊に満たされていたからです。(使徒 6 : 3)

答えは次のとおりです。

神は使徒ペテロと使徒ヨハネを確認のためにサマリヤに遣わされ、彼らをとおして神が正式に教会の新しい発展を承認されました。

神は、ご自身のご臨在のしるしとして聖霊を送られ、新たな段階を確認されました。

これは重要なポイントです。教会はユダヤ人だけのものだとユダヤ人が思わないためです。

神は、教会発展のすべての段階を承認しておられました。

使徒の働きの学びを進めると、まだ発展の段階があります。

2. サマリヤ人がイエス・キリストを信じたとき、聖霊は働いておられたのでしょうか。つまり、彼らは信じたときに新生したのでしょうか。それとも、救われるために手を置いてもらう必要があったのでしょうか。

新約聖書の教えを根拠に、彼らが新生していたと私は確信しています。

その根拠となる聖書箇所を読みましょう。

使徒 2 : 38

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

使徒 16 : 31

16:31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。

ローマ 10 : 9-13

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

10:11 聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。

10:13 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

他にも、明確な福音のメッセージを心から信じるなら、新生し、神の聖霊を受けることを証する聖書箇所は 30 箇所以上あります。

使徒たちをとおして聖霊が注がれたのは、サマリヤ人を救うためではありませんでした。五旬節で信じたユダヤ人の信徒たちと同じであることを証明するために、聖霊が注がれたのです。

サマリヤ人はユダヤ人のカルト集団だとみなされており、昔からユダヤ教の信仰には反抗的だったことを考慮する必要があります。

神は、彼らがイエスとその福音を信じた信仰が、五旬節でユダヤ人たちが持った信仰と同じであることを、目に見えるかたちで証明する必要性を感じられたのです。

3. ピリポはなぜサマリヤ人をイエスの御名によってのみバプテスマを授けたのでしょうか。

マタイ 28 : 18-19

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

ここでの強調点は、父、子、聖霊の御名にあります。

使徒 2 : 38

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

使徒 10 : 47-48

10:47 「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましようか。」

10:48 そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。

使徒 19 : 5

19:5 これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってバプテスマを受けた。

ピリポが人々にバプテスマを授けた方法に問題はありません。彼は、自覚を持って行動しており、イエスの命令に従っていました。

この個所について他にも疑問があるかもしれませんが、よく聞かれる質問はこれらの 3 つです。

聖書は、クリスチャンの救いの体験にふたつの段階を教えていないと言いましたが、心の中でなされる聖霊の働きについて多くのクリスチャンが混乱していると思います。

聖書は、聖霊に満たされることについて教えます。

ギリシャ語では、満たされ続ける、という意味です。これは、継続的な働きです。こういった聖霊体験は、救いではなく聖化と関連があります。

この個所の学びを終える前に、18-24 節に登場する魔術師シモンについてお話ししたいことがあります。

13 節には、シモンが信じてバプテスマを受けたとあります。

しかし、18-19 節を読むと、使徒たちに手を置いてもらった人々が聖霊を受けたのを知ったシモンは、この力をお金で買おうとしました。

シモンはペテロに痛烈に非難され、その心が神の前に正しくないとされます。

そして、その悪事を悔い改めなさいと言われます。ペテロは、シモンが苦い胆汁と不義のきずなの中にいると言いました。

ここで何が起きているのでしょうか。ルカは、私たちに何を教えたいのでしょうか。

この状況を3つの言葉を使って説明します。

ひとつめは「対比」です。

使徒5：1-11に記されたアナニヤとサツピラの話と、魔術師シモンの話を比べてみましょう。アナニヤとサツピラは、イエスを知り、聖霊に満たされていると自称するユダヤ人信徒でした。彼らはふたりともバプテスマを受けており、使徒たちによってユダヤ人の信仰を教えられていました。

彼らは、わざと土地の金額をごまかし、神を試して、聖霊に対して罪を犯しました。それで、神は彼らの命を取り去られました。神の怒りをあらわすしるしとして、また教会をきよく保つためです。

この話と比べて、シモンはサマリヤ人で、信仰告白してバプテスマを受けました。けれども、その心は神の前に正しくありませんでした。

シモンは、聖霊の賜物を受けておらず、まだ悪魔に縛られたままの状態でした。霊的に盲目だったのです。

次に「状態」です。

シモンは、深刻な状態でしたが、そこにはまだ赦される希望が残されていました。

ペテロは、「悔い改めて、主に祈りなさい」と告げました。

22節のペテロの言葉に注目しましょう。

使徒8：22

8:22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。

神の側の問題ではなく、シモンの心の状態が問題でした。

3つめは、「束縛」です。

ペテロは23節で、非常に厳しい言葉をシモンに語ります。

使徒8：23

8:23 あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいることが、私にはよくわかっています。」

ここでペテロは、旧約聖書の個所に触れています。その個所は、他の神を拝まず、苦い根を持たないようモーセがイスラエルの民に警告した場面です。（申命記29：18、ヘブル12：15）モーセは、民の心の中にそのような苦い毒があると、神は赦してくださらないということを言いました。

同じように、ペテロはそのような苦い根を心に持たないようにとシモンに警告しています。

シモンは、罪に縛られ、罪の奴隷だったのです。

（イザヤ書58：6と対比）

適用

ここで大切な適用についてお話します。

日本では、心から信じてクリスチャンになる前は、神社やお寺で拝んだことがあるのはほぼ確実でしょう。両親や祖父母に連れていかれたことがあるかもしれません。

または、十代で神社やお寺に行き初めて、そういった場所で拝むのが習慣だったかもしれません。占いなどのオカルトにはまったことがある人もいるでしょう。それらの行いがすべて、私たちがサタンに縛りつけるのです。

私たちには、そうやって縛られた部分があります。それは、イエスの十字架によってのみ破ることができます。

イエスは、私たち全員が罪の力から解放されるために死んでくださいました。

大変な戦いですが、私たちは自分で直接イエスに助けを求めなくてはなりません。イエスに罪を赦していただく必要があるのです。イエスだけが、罪の鎖を断ち切って私たちを自由にできるのです。

リトリートに参加されたら、罪から解放された元ヤクザの人についてヒュー・ブラウン師から、聞くことができます。

私たちが心から救いを求めるなら、神は私たちを自由にすることがおできになります。

では、ピリポがかかわったふたつめの伝道の働きに話を進めましょう。これは、ひとつめの働きとはまったく異なります。

ピリポが、エチオピヤ人にキリストを伝える。(26-40 節)

今日の個所の後半です。神は、ピリポを導き、エチオピヤ人の心を整えられます。そして、聖書のみことばをとおして、福音が正しいことを確認されます。

この個所の学びに入る前に、このエチオピヤ人がどこから来て、なぜエルサレムにいたかという背景についてお話ししましょう。

当時のエチオピヤは、現在のナイル上流、アスワンからハルツームの辺りです。

旧約聖書では、エチオピヤはクシュと呼ばれていました。(エゼキエル 29 : 10 参照)

この人は、「宦官」だったと説明があります。

では、「宦官」とは何でしょう。

通常は、ハーレムの管理人を指します。ハーレムとは、王や権力者など裕福な人と結婚して所有されていた妻たちの集団です。

宦官は通常、ハーレムにいる妻たちと性的な行為ができないように、去勢されていました。

また、婦人の周囲で仕える、去勢されていない政府高官という意味もありました。

申命記 23 : 1 によると、去勢された「宦官」は、宮に入ることも、宮での礼拝に参加することもできませんでした。

けれども、彼が去勢されていたとしても、外国人も宦官も神の民の交わりから締め出されることのない日がやってくると聖書は教えます。

イザヤ書 56 : 3-7

56:3 【主】に連なる外国人は言うてはならない。「【主】はきっと、私をその民から切り離される」と。宦官も言うてはならない。「ああ、私は枯れ木だ」と。

56:4 まことに【主】はこう仰せられる。「わたしの安息日を守り、わたしの喜ぶ事を選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、

56:5 わたしの家、わたしの城壁のうちで、息子、娘たちにもまさる分け前と名を与え、絶えることのない永遠の名を与える。

56:6 また、【主】に連なって主に仕え、【主】の名を愛して、そのしもべとなった外国人がみな、安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、

56:7 わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。

私は個人的に、この個所に登場する男性が去勢されていたのだと考えています。というのも、イザヤ書 56 : 3-7 はイザヤ書 53 章と近い個所だからです。彼は救われてまもなく、その個所にたどり着いたでしょう。

ピリポがこのことについて彼に教えたかもしれません。

いずれにせよ、この男性はエチオピヤの女王カンダケのもとで、国の財産管理を任された高官でした。カンダケとは個人名ではなく、息子に代わって国を支配する母親の女王を指す呼称です。

この個所には、彼が礼拝のためにエルサレムに行った帰りだとあります。宮の中には入れませんから、ユダヤ人の祭に参加していたのかもしれませんが。彼はアフリカの黒人で、母親の血筋にユダヤ人がいたのか、ユダヤ教に改宗した人でしょう。

この情報を念頭に、本文を学んでいきましょう。

ここにはいくつか注目すべき点があります。

1. 神が御使いをとおして導かれる。(26-27 節)

まず注目すべきことは、神が御使いをとおしてピリポを導かれたことです。

私たちがイエスを証しようとするときに、毎回神が御使いをとおして導かれると期待すべきではありませんが、現代でもそれは起こり得ます。

今年はクリスマス前の 12 月 8 日に「御使いについての真実」という説教をする予定です。使徒の働きには御使いが繰り返し登場するからです。

その説教を聞けば、きっと皆さんの励みになると思います。

この個所の要点は、神に託された務めがあるので出かけなさいとピリポが言われたことです。この時点でピリポがどこにいたかは書かれていませんが、使徒たちがエルサレムに帰った後だということはわかっています。(25 節)

ピリポは、行くべき先を具体的に指示されました。

実は、エルサレムからガザに行く道はふたつあります。ひとつは海岸沿いで、もうひとつは荒野の道です。御使いは、荒野の道に行くように明確に伝えています。

ここで、ピリポが神のみことばに従ったのはとてもよいことです。

私たち現代人には聖書があります。そして、聖書を読むと、神が聖霊によって私たちを導いてくださいます。そこで問題になるのは、私たちが神のみことばに従っているか、ということです。

例

人間同士の話にたとえるなら、私がある人に、OIC でイエスのために何らかのかたちで奉仕することを繰り返し勧めたとします。けれども、その人は毎回断ります。そのうち、私は言うのをやめてしまいます。

聖霊も同じです。私たちが小さなことで神に従順であれば、神は私たちにいくらでも奉仕を与えてくださいます。

小さなことで神への従順を積み重ねましょう。それがなければ、御使いが家に来て、「生駒山に行きなさい、そこに日本人の男性がいて聖書を読んでいます、内容がわからないのです、その人に福音を伝えなさい」といった指示を受けることは期待できません。

2. 神がみことばをとおしてエチオピヤ人の心を整えられる。(27-30 節)

ピリポが旅に出る覚悟をする必要もありましたが、ピリポの言葉を受け入れるためにエチオピヤ人の心が整えられる必要もありました。

この個所には、エチオピヤ人は馬車に乗って預言者イザヤの書を読んでいたとあります。

(小さな聖書で 86 ページ分)

もしかすると、エルサレムで買ったのかもしれませんが。そして、女王の書斎に置くために持ち帰ったのかもしれませんが。はっきりとはわかりませんが、彼が読んでいたものが巻物だったことはわかっています。

ひとつ注目すべきことは、当時の人は、聖書を常に音読したという点です。現代の私たちのように、黙読はしませんでした。

当時は、黙読では集中できないし、音読するとみことばの暗唱に役立つと考えられていました。(そのとおりのかもしれません。)

ですから、このエチオピヤ人の男性は、イザヤ書を音読していました。

それで、ピリポが馬車の近くに行くと、その人がイザヤ書を読んでいるのが聞こえたのです。

(30 節)

聖書を読んでも、理解するのはなかなか簡単ではありません。特に、イザヤ書やエゼキエル書などの預言書はむずかしいです。

そういうわけで、神は牧師や教師、伝道者、日曜学校の教師、小グループのリーダー、弟子訓練の親役といった奉仕者を立てられます。

そういう人たちは、神の真理を伝える賜物を神からいただいています。

そのような奉仕者が必要です。そういう奉仕者になろうという人はいませんか。

3. 神は、みことばの真理を説明するピリポを助けられる。(30-35 節)

ピリポがエチオピヤ人に最初に尋ねたのは、「あなたは、読んでいることが、わかりますか」という質問でした。これはとても良い質問です。

エチオピヤ人はイザヤ書 53：7-8 を読んでいました。

イザヤ書 53：7-8

53:7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

53:8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。

ルカが引用した箇所は、ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように苦しむ人について語ります。

この人は、ひどく辱められ、不当に扱われ、殺されます。

エチオピヤ人は、預言者が語っているこの人物が預言者本人のことか、それとも他の人のことか、と尋ねます。

ピリポはそれに答えて、この聖書箇所から始め、イエスの福音を彼に伝えます。

ピリポは、神の御子イエス・キリストが栄光に満ちた天を離れ、人間の罪の罰を受けるためにこの世に来られたことも説明したでしょう。このお方が、ほふり場に引かれていく羊のように苦しまれたお方です。そして、ひどく辱められ、不当に扱われ、殺されたお方です。

イエスは、私の罪のため、あなたの罪のために、そうしてくださいました。

けれども、自動的に赦されるわけではありません。エチオピヤ人は罪を自ら悔い改めなくてはなりません。そして、彼はそうしました。主を賛美します。

ここで考えなくてはならないのは、私たちは自らの罪を悔い改めたか、ということです。

ピリポとエチオピヤ人は、おそらくしばらく一緒に道のりを旅し、そして、水のあるオアシスにたどり着きました。

エチオピヤ人は、バプテスマを受けたいと申し出ました。

ピリポは、心から信じているならできますと答え、エチオピヤ人は、イエス・キリストが神の御子であると信じますと答えました。

そしてピリポはエチオピヤ人にバプテスマを授けました。

この後、ピリポは霊によって連れ去られたので、もういなくなりました。

エチオピヤ人は、喜んで帰っていきました。

ピリポはアゾトに現れ、引き続き伝道しました。

これは、神が初代教会時代にピリポをとおして働かれたという素晴らしい実話です。

神は今もご自身の教会の中で働いておられます。皆さんは、日本の失われたたましいに福音を届けるために神に用いていただきたいと思いませんか。日本には、1 億 2000 万人以上もの人がいるのですから、神を必要としている人が大勢います。

けれども、私たちにその覚悟がなくてはなりません。そして、福音を受け入れられる状態へとその人たちの心を神に整えていただく必要があります。

神の御手に用いられる器となれるよう、神が私たちを助けてくださいますように。